

## 第 29 回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日 時	平成 22 年 3 月 17 日(水) 17 時 30 分～ 20 時 00 分
場 所	船橋商工会議所
参加者数	46 名
出席委員	17 名( 遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、宮脇勝、及川七之助、 中村泰利、竹川末喜男、三橋福雄、歌代素克、後藤隆、佐々木洋晁、 松崎利光、田草川信慈(代理：東条等)、森茂、荒木博美、大野二三男、 鯉淵彰) ：委員長
結果要旨	
<b>報告事項</b>	
<b>第 28 回委員会の開催結果概要</b>	
資料 1 により事務局から報告。	
[ 主な意見及び対応 ]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市から漁港計画の絵がまだできていないと説明があったが事実か。 市川市から回答 本年度に基本計画を実施しており、何案かできているが、今後県との調整も必要で、 まだ検討段階のため公開していない。</li> <li>・ 検討段階のもでも公開してもらいたい。 市川市から回答 使用する漁業者や環境への配慮、経済性などを考えて検討している。漁組の意見をき き、その他にもいろいろな意見を聞いて決めたいと考えている。</li> <li>・ 漁港整備について、再生会議や関係委員会での意見を反映させられるようにしてもらい たい。</li> </ul>	
<b>第 3 回勉強会の開催結果概要</b>	
資料 2 により事務から報告。	
[ 主な意見及び対応 ]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>	
<b>議題</b>	
<b>塩浜 1 丁目護岸について</b>	
<b>護岸改修について</b>	
資料 3 により事務局から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。	
[ 主な意見及び対応 ]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 背後の土地利用や、市民がたくさん来るようになることから、歩行者への安全確保につ いて配慮が必要である。</li> <li>・ 3 割勾配にした場合、滲筋や航路に支障はないか。 事務局回答</li> </ul>	

護岸前面は、測量結果によると護岸から約30mのところに深さ約1mの淺がある。第1案の3割勾配でも張り出しは25mであることから、この淺への影響はさほどないと考えている。

また、市川航路までは、1丁目先端から約100m離れており、護岸の張り出しもそれほど大きくないことから、市川航路への影響はないと考えている。

- ・ 3割勾配にすると波がかけ上がるので、波をどう返すか考えるべきではないか。
- ・ 漁港の位置は、現在の位置で確定なのか。港内に漁港を作るような話もあったと思うが。

市川市回答

漁港の区域は、現在の位置で改修を計画している。

- ・ 第3案のブロックは、越波流れの抑制、反射波が少ない、大きな間隙があり生態系の場として望ましいといったメリットがある。問題としては、約-20mまで地盤改良が必要で費用がかかるということだが、他の事例ではここまで改良はしておらず、改良しない案を提案したい。地盤改良をしなければ、費用が最も安価となる。1案、2案、3案ともに軟弱地盤対策をしているが、液状化すれば大なり小なり被災し補修が必要となるのだから、工事費が安価で被災時の補修費と合わせても経済的と考えられる案を採用する考え方もある。
- ・ 第3案のブロックで地盤改良をしなくてもよいならば、安価で張り出しも少なく望ましい。ただし、前回勉強会では、ブロック同士が噛み合っているため崩れたときの補修が困難なため地盤改良が必要と説明があった。今までと異なる情報が入ってきたため、判断ができない。
- ・ 遠藤委員長の提示した標準断面図では基礎コンクリートを打設するので不等沈下には強いが、円弧すべりの検討をしていないので、事務局が提示されている1案、2案、3案と同等に比較することはできない。この案でも円弧滑り、地震に対して安全であること及び経済性が評価されれば、4つの案が比較できる。
- ・ 第3案で地盤改良以外の液状化対策としては、H鋼を2本打つことになるのか。

事務局回答

詳細な検討はまだしていないが、H鋼を打てば円弧すべりは抑えられるが、不等沈下は抑えられない。

- ・ 1丁目は緊急を要するので、早く進めるためにもこの3案の中から、実績や経済性を踏まえて決めてもらいたい。
- ・ 今のままの護岸は危ない。第2案ならば捨石を先行して施工でき、安全を確保できるので、第2案を採用し捨石だけでも急ぎ施工してもらいたい。
- ・ 第3案には、仮設棧橋の費用を含んでいないとあるが、含めて経済比較するべきではないか。

事務局回答

仮設を含めなくても費用が一番大きかったので計算はしなかった。

- ・ 波当たりが強いので、波返しをつける検討が必要ではないか。また、ブロックの形状について、複数の案を示してもらえれば、その中で酸素が入りやすい形状などを検討して選ぶことができる。
- ・ 中部国際空港の展望デッキは空港を上から見下ろせてすばらしい場所であったが、警備当局によりフェンスが設置された。名古屋港や清水港でも人が近づけないようにしてい

る。事務局は、当該箇所の検討にあたり、あらかじめ警備当局とテロ対策について話をしておいたほうがよいのではないかと。

- ・ 第2案で落ち着きそうだが、天端高の設定根拠が弱い。越波をどの程度抑えるかという話も、感覚的な話しかしていない。今後、話を詰めていなく中で、高さ（AP + 5.65m）を変更することもありえるのか。

#### 事務局回答

天端高は、朔望平均満潮位の計画値に想定最大偏差を加えた高さとし、漁港区域との整合もはかった結果、AP + 5.65mとしている。

- ・ 現在とAP + 5.65mの場合について、越波量を算定してはどうか。
- ・ 越波量をどこまで抑えるかを検討しておくことは大切である。
- ・ 越波してもいいように背後の土地利用は考えられているのか。

#### 佐々木委員回答

越波しても大丈夫な設備にはしていない。ただし、裏が港湾区域であり、荷役のため高さを上げられないので、裏から水がくるのは仕方がないと考えている。

- ・ 市川市行徳漁業協同組合の資料が、台風時に越波した波により全滅し、入手出来ないことがあった。整備後に越波を抑えられるかをチェックして欲しい。

委員より、今後は第2案を中心に進め、第3案も検討するため残すということで了承された。

### 事前の環境調査計画（案）について

資料4により事務局から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

- ・ 1丁目先端の堆積域の生態系は重要なので配慮してもらいたい。

委員より、案について了承された。

### 塩浜2丁目護岸について

#### 三番瀬評価委員会からの意見及び対応について

資料5により事務局から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

- ・ 第55シートに「土嚢による基盤と石の間詰めによる基盤との比較では今のところ明確な差異は見出せない」とあるが、石の間詰めと海砂での種まきの活着率は明らかにいいので、明確な差異が見出せないと言ってよいのか気になる。

### 護岸検討の進め方について

資料6により事務局及び市川市から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

- ・ 市としては、海側の図に黄色で着色した部分をどのような用途に使いたいと考えているか。

#### 市川市回答

住居系ではなく、商業など人が集まるゾーンにしたいと考えている。

- ・ 1 期地区の護岸を 2 期地区の断面及びバリエーションで施行すると書いてあるが、入り江みたいな環境を作るなど、今までのバリエーションより積極的なバリエーションを作るべきだと思う。

#### **傍聴者からの意見**

- ・ 1 丁目の護岸について、生物種、個体数の調査結果を行うべき。
- ・ 砂付け試験をやっているが、海域を埋めない、狭めないという三番瀬の考え方に反しており、疑問である。